園だより

令和６年１２月１日

社会福祉法人新田保育園
園長　大西　陽子

子どもと絵本

絵本はその名の通り“絵の本”です。文字がわからない子どもも絵で楽しめるのが魅力の一つです。大人の膝の上で、または寝る前の布団の中で、安心できる読み手の声を耳にしながら、目で絵だけを追っている子どもも少なくありません。言葉を読む大人の傍らで、子どもは“絵を読んで”いるのです。

先日、吉祥寺にある絵本の古本屋さんのお話を聞く機会がありました。その際、子どもにとっての絵本について『字が読めない素晴らしさ』と『知らないことの大切さ』ということを話していました。絵本はアニメーションや漫画とは違い、細かい描写のない厳選された言葉と絵から想像を膨らませる楽しさがあります。そのため捉え方は人それぞれ。もちろん、ストーリーから外れて絵だけを楽しんでも構わないのです。そして、「なんでだろう？」「どうしてだろう？」「どうなるんだろう？」と、知りたい気持ちが絵本をより面白くすると言います。あの山の向こうに何があるのか、月はなぜ夜空に浮いているのか、サンタはどこからやってくるのか。知らないからこそ想像力が働き、知りたいという意欲が掻き立てられるのです。どれだけ子どものまま大きくなれるかが、絵本を末長く楽しむための秘訣だとおっしゃっていました。

さて、もうすぐ冬まつり。ぞう組では子どもたちが大好きな絵本『１１ぴきのねこ』シリーズを劇にして演じようと奮闘中です。２次元の絵本から３次元の舞台でどのように表現すれば伝わるのか、意見を出し合いながら取り組んでいます。絵本の限られた情報から、ストーリーにない細かい描写まで自由に想像を膨らませる子どもたち。時に大人にはない発想が飛び出し、保育者が唸るという場面もありました。想像から創造する作業に正解はありません。本来、少人数や自分だけで楽しむ性質である絵本を、保育園という集団の場において教材として取り入れる理由はここにあります。友だちとストーリーを共有すると、その世界でのごっこ遊びが始まります。生活体験が基のいわゆる再現ごっことは違い、絵本の世界のごっこ遊びには想像することの楽しさが加わります。ゆえにイメージの違いや、それを言葉で表現することが難しくてトラブルになることも日常茶飯事です。けれど、同じ世界観の中で一緒に遊びたいと思うからこそ、コミュニケーション力が磨かれていきます。子どもたちが絵本の世界を現実世界で友だちと楽しむためには、想像力と創造力とコミュニケーション力が必要なのだと、改めて気づきました。

（文責：須田　千鶴子）

12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
		頭ジラミチェック りんご組面談週間	→	→	冬まつり総練習②	→	→	→	→		避難訓練			冬まつり		ひよこ組個人面談週間	健康体育（3・4・5歳児）	健康診断（0・4歳児）		プラネタリウム鑑賞（4・5歳児）					誕生会・写真の日			保育納め			